

令和元年度 第1回菊池市の未来を考える懇談会会議録

日時：令和元年7月4日（木）13：30～

場所：菊池市役所 3階 304会議室

出席者：上野眞也委員、田中忠彦委員、北村聡一郎委員、山口法子委員、上野智美委員、
栃原茂樹委員、秋岡愛美委員、水上博司委員、芹川正直委員、古津理恵委員、
岡本博美委員、佐美三信雄委員、吉井美樹委員

傍聴者：なし

事務局：江頭市長

元島政策企画部長

【企画振興課】古閑課長、上野係長、井芹参事、村上主事

1. 開 会 進行：古閑課長
2. 委嘱状交付
3. 自己紹介
4. 会長・副会長選出 会長：上野委員、副会長：古津委員
5. 市長あいさつ
6. 議 題

(1)2019癒しの里戦略について

- ・市長より戦略について説明（40分）
- ・委員からの発言の概要は以下のとおり

（委員）	「人」＝市民力が重要である。地域を愛し、誇りに思える人材、子どもたちを育てることが大事だと思う。かつては小中高等学校へ出向いて菊池の教育をしていた。地域をいかに知っているか、子どもを取り巻く大人への教育も必要であり、人材を育成するには、地域と学校のつながりが重要と考える。
（市長）	社会教育等、地域と学校のつながりが大事だと思う。例えば、長年農業をされている方の話を聞いたり、社会人による教育も大事である。
（委員）	子どもには体験させることが必要。市民力、チャレンジしやすい菊池になってきたと、認められつつあると思う。最近、外国人の方々に剣道を体験してもらおう場を提供することがあり、子どもたちが言葉の壁を越えて交流することができた。剣道を通じて、子どもたちに色々な体験をさせることで、大人にとっても市民力が上がるきっかけになればと考える。
（市長）	欧米ではサムライがポジティブに受け入れられている⇒剣道体験で外国

	人に喜ばれ、お金を落す仕組みができる。子どもたちにとっても、視野が広がり良い体験になる。
(委員)	体験を通して子どもたちの世界も広がると思う。
(委員)	私の仕事柄、元気のない人が集まってくる。元気がない人もいろんな行事などに引き込めるような仕掛けが必要だと思う。県外・外国のお客さんが来られた際に、グルメ街道ができればありがたい。50代半ばの女性からは、お金ではなく自分が活躍できる場が欲しいと相談を受けた。子育てが終わった方の、生きがいつくりや、お手伝いできる場を市と考えられたらと思う。
(市長)	市民参画の仕組みづくりをしたい。
(委員)	市の状況を改めて知ることができた。市の取組みを市民は十分に知らないなので、分野毎にもっと発信して欲しいと思う。市の取組みが分かると分野別の人材を繋げることができる。市の取組みをさらに市民に発信すれば、もっと市民力が上がると思う。
(市長)	地域から要望があれば、市の取組みを説明したい。
(議長)	地域の人材を育成することが大事。子ども達が成長する過程で、一度家を出たとしてもいずれ地域に戻ってきたいと思うような教育環境や産業が必要である。このような環境整備と人材育成を進めておけば、未来への道は自ずと開けてくる。地域に根ざす教育を行う必要有り。
(委員)	菊池高校の活性化について議論した結果は、どうなったのか？
(市長)	市内3高校の魅力化については、高校から事業計画が提出された。菊池高校は英語を使って、他校との差別化を図りたいとしている。近年、大学入試は人物重視になっているため、民間へ委託しALTを菊池高校に派遣している。菊池農高はフランスとの人的交流が始まった。菊池女子高はこれから。教育には時間がかかるが、目先のことにとらわれてはいけない。
(委員)	農業高校に行って就農する人はどのくらいいるのか。
(市長)	あまりいない。
(議長)	地域に根ざした教育の成果を期待したい。
(市長)	青年会議所で市長と語る会を開催した。青年会議所に高校生も参画している。
(委員)	子ども達は、菊池市内で遊ばず市外に出かけている状況。イデベンチャー等の市内での遊びを体験する場が必要だと思う。例えば、農業体験を通して、子ども達がこんなことをやりたいという意欲を引き出す。生産した作物の6次産業に向けて、チャレンジしたいと考えているが、新たに建設された加工場を利用することはできないだろうか？
(市長)	そういうニーズがあることを伝えたい。

(委員)	せっかくできた施設を使えたらいいなと思う。農家レストランにも興味があるし、うちで生産された食材を使って料理上手な人とやってみたい。今はどんな所でも美味しいところに人が集まる傾向にある。
(委員)	旭志は畜産業が全国でも有数の産地であるにもかかわらず、全国的に旭志牛の知名度が低い。延寿鍛冶展で当日受付をしていたが、若い女性の来客が多かった。観光協会が主体的に実施しているかもしれないが、宣伝力、発信力が足りない。のぼり旗を立てるなど、もっと宣伝が必要。 現在、地域は高齢化が進み人築（地区作業）が大変になっている。
(議長)	地域づくりの一環で、西原村や天草では地区毎に清掃コンテストや耕作放棄地に案山子を立てるコンテストをするなど、地域の活力を引き出している。地域間で競争力が生まれると同時に楽しんで取り組まれている事例があるので、イベント化して楽しめる工夫をするのもいいかもしれない。
(委員)	私は、子どもがいかに地元に残るかを考えながら子育てをしている。自分が子どもの頃は児童数も多かったが今は少ない状況。子育てしやすい菊池市であることを望んでいる。菊池市に親子連れで楽しめる場所があれば、家族で来られて温泉に入って帰ったりできる。 消防団をしているが、消防団員が減っている現状をみて、郷土愛が希薄化しているのではと思う。歴史を紐解いて理解を促すことが、若者の意見を引き出すことにつながるのではと考える。
(委員)	菊池人であるが故に菊池を知らない。菊池市外の人の方が菊池のことを知っていたりする。これまで身近過ぎて関心を持つことがなかったし、良さを実感することがなかった。良さは市外の方から聞くことが多い気がする。以前、勧められて民泊を受け入れたことがあり、その人とは交流が生まれ、今では色んなつながりが生まれて広がった。例えば、そこで知り合った人が SNS にアップしてくれて、その友達が来てくれたりする。移住することは厳しいが、関係人口が増えることで、地元のよさを再発見することができたと思う。 かつて鞍岳山は旭志のシンボルであり、小学生の頃は、鍛錬遠足で必ず登っていたが、今の子ども達は登ったことがない。鞍岳山に登山することで、鞍岳山を知り、郷土愛を育てることができると思う。
(委員)	四季の里の利用者の半分は、キャンプやバーベキュー、半分は登山が目的。利用者は地元以外の方が多く、登山入口を尋ねられる事が多い。鞍岳登山道の看板が壊れている。せっかく良い観光資源があるので、修繕をして欲しい。また、目印になるものが無く、登山者の4組に1組は迷子になる。遭難した時のための目印や道標があると良い。先日熊日に掲載された蕎麦畑を訪ねに来られた。効果的に情報発信ができるやり方を考えるべき。

(委員)	イベント後、家族連れで食事するところが少ないと思う。ブランド推進室からヤーコンとヨーグルトを使った商品加工の依頼を受けたが、1企業で作らあげるのもいいが、例えば、企業と農高のコラボ商品を菊池のブランドとして売り出すのもいいと思う。
(委員)	懇談会のテーマは、農業や食などに絞り込んでいいのでは。グルメ街道は、実現するといいと思う。小国の蕎麦街道のように、今あるものを活かすべき。 熊本駅は菊池へ直行できる唯一の玄関口になるのに、菊池行きのバスの乗り口が分かりにくい。菊池市へ迎え入れる玄関口として、お金はかかるかもしれないが案内表示することが重要だと思う。
(議長)	皆さんの話を聞いて、菊池市民がまずは豊かな体験をして、その情報を拡散できるような状況にするためには、まだ改善の余地があるようだ。菊池に住んでいる人は、グローバルビレッジ等、菊池でワクワクすることが起きていることをまず知ることから始める必要がある。
(市長)	前向きな意見が多く頼もしかった。①熊本駅のバス停については旅行者目線を考えて確保することが必要だと感じた。②「子ども」というキーワードがあった。子どもが自然のなかで遊ぶことが減った。恵まれた資源があるのに宝の持ち腐れになっている。ツリーハウス、川遊び等ワクワクすることへ関心を持ち、そんな体験をする。親も一緒に自然へ飛び出すことが重要だと思った。③菊池人が、菊池の良さを知らないのは課題だと感じている。これからも本市の魅力を発信する機会を作っていきたい。
(事務局)	① 次回は9月開催予定 ② 次回のテーマは今日の意見を整理しいくつか案を抽出する。次回懇談会の前に資料を送るので事前に確認してほしい ③ 新市建設計画の進捗状況及び、新市建設計画の変更について説明を次回行う